

校友会福島支部だより 第四号



上記QRコードから校
友会本部へアクセス

発行 芝浦工業大学校友会福島支部
事務局 喜多方市山都町中石打場 3263
yamato.watanabe@nifty.ne.jp

校友会福島市支部の定時総会が開催



総会に参加された方々



丁龍鎮理事兼医務局長の挨拶

去る5月25日、令和6年度定時総会を郡山ビューホテルで開催。会員8名が参加、(委任状9名)。大学からは丁龍鎮(ちよう んじん)理事・事務局長と校友会からは新井剛副会長、後援会東北支部からは佐藤正樹副支部長の3名に御出席いただきました。会議では、昨年の総括で、前年度から継続で実施している手紙とメールでの会員数拡大活動に関して現状の報告がありました。また今年度の事業としては地域交流活動の説明がありました。また、今年度の事業としては、地域交流活動の説明がありました。

前号で紹介しました母校の資金援助を得て活動している「学生プロジェクト」(笑顔のまちなこそプロジェクト・いわき市勿来町の地域おこしを継続して支援している団体)を福島支部として支援し、当

支部の活動紹介の場としても活用できること。さらには、この「学プロ」への大学からの資金援助が中止されたことを受け、財政的な支援と「交流スベール」の訪問を計画することになりました。

大学からは、豊洲校舎に設けた「有元史郎」記念館と、大学のあゆみを綴った動画の紹介がありました。その中には、創設者「有元史郎」の歴史も紹介されております。また単科大学で日本初のスーパーグローバル大学に選定され、近年の箱根駅伝への出場や、日本初のシステム理工学部の新設など、現在の状況説明も頂きました。校友会からは、今年度から学科制から課程制に移行すること。後援会東北支部からは、現在の東北6県出身の学部院生286名のうち、福島県からは70名が学んでおり、後援会として今後とも支援していくお話をいただきました。



席で和気あいあいのコマ



二次会に参加された方々

福島支部から全国大会に3名参加

2024年度の全国総会が、去る6月8日(土)に東京のグランドニッコー東京台場にて開催されました。当支部からは、樋口支部長、和田副支部長、柳沼幹事の三人が参加しました。

今年は、アトラクションの全てが現役学生のサークルで演出されました。演奏は大変上手でしたし、学生が出席することで、一層、校友会が身近に感じられる事と思えました。地方支部は、新規会員の加入が少なく、年々会員数が減少している状況にありますが、若い方が校友会を身近に感じることで、新規加入が増えることを願っております。



軽音楽サークル演奏も華やか



左から和田、樋口、柳沼の各氏



今年のアトラクションは全て現役学生達

学プロ支援金贈呈式

芝浦工業大学校友会福島支部は、八月十日「笑顔のまちなこそプロジェクト」を支援するために、八万円の支援金贈呈を行いました。贈呈式には、校友会福島支部から樋口支部長、プロジェクトの立ち上げに関わった中村仁副学長、プロジェクト代表戸橋ななみさん達メンバーの10人、そして、学生の面倒を見て頂いているNPO法人「勿来まちづくりサポートセンター」理事長である館敬様の出席で行われました。式典では、樋口支部長が支援金



コペンハーゲン・ニューハーン



高杖の秋

会員の皆様の「今日」の「今日」
 今回から花塚久保様(昭和36年機械工学科卒)からご送付いただきました絵画を連載で紹介いたします。88歳になれましたが、元気にスケッチや絵を描いているそうです。花塚様ありがとうございます。



中村副学長からのご挨拶



支援金の贈呈式の様子

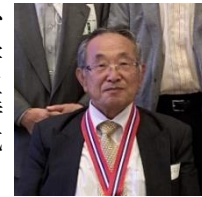


前列左から舘様、戸橋様、
 樋口支部長、中村副学長

に込めた思いを述べ、中村副学長からはプロジェクト発足時の状況と校友会福島支部へのお礼が述べられました。支援金は、学生プロジェクト代表の戸橋ななみさんへ手渡され、式典は、終始なごやかな雰囲気で行われました。

先輩を訪ねて

シリーズ3回目に登場していただく先輩は、濱田英晴(はまだ ひではる)様です。濱田先輩は、第三代目の支部長で、東日本大震災に被災し混乱していた時期に支部長をされていました。いわき市で(株)サンテックを起業し、各種プラント及び機器の設計、建設の仕事を運営されています。



濱田英晴氏

今回は、東京出身の濱田先輩より、学生時代そして福島支部に入会された頃の思い出を語っていただきました。ありがとうございます。

芝浦の思い出

昭和45年機械工学科二部卒業 濱田英晴

私は高校卒業後、一度就職しましたが、そこで学問の必要性を感じ1年で退社、その1年後に芝浦の二部機械工学科に入學しました。芝浦工大には何かと縁があったようで、最初の会社の同期が芝浦の卒業生、そして入學試験の試験問題を配布しに來たのが中學時代の遊び仲間だったりと縁を感じます。入學後出來た8人の友達の中では私が年齢が上で何かと言いだしつべになり、「やろう会」(八郎会)と名付け、学校帰りに飲みに行ったりしてました。

その当時、長野県の湯ノ丸高原寮にスキーに行ったり、千葉県保田の海の家に行った事も思い出の一つです。二部の学生は卒業旅行などあまりしないだろうから、仲間内で金を積み立てて、やろうと提案し、5年生の時にみんなで北海道1周旅行をして來たの思い出として残っています。当時の私は三田側に勤めており、夕方、田町駅を超えて芝浦工大に通っていました。4、5年生の頃は学園紛争の煽りで、芝浦の倉庫街を「学費値上げ反対」と誰も居ないような所で、学生が叫んでいた事が思い出されます。そのうち学生達がバリエードで学校をロックアウトしてしまい、大学では満足な授業が出來ず、卒業設計を6月迄に提出すれば3月卒業を認めるとの措置で卒業式も無く、何人卒業したかも解らないそんな時代でした。

福島県には昭和54年12月に三か月の予定で出張して來ました。その後、色々あり、昭和59年に退社独立し現在に至っています。校友会福島支部との繋がりは福島県に出張してきた仕事の客先担当者に、芝浦の卒業生(田島氏)がおり、校友会福島支部があるので行ってみないかと誘われたのが始まりです。また現在の顧客先(名古屋本社)の建設担当者が帰任する際「ところでどちらの学校でしたか」と尋ねたところ、「芝浦です。」というではありませんか。何かと縁ある芝浦工大にびっくりした次第でした。

芝浦びと 川柳コーナー(笑) お題は「大學時代の苦い思い出」でした。

○授業中 チョークの飛礫? 目が覚めた
 ○ビリヤード バイトで手にし 三日だけ

次回のお題は「大學時代のバイト」です。

3月発行の支部だよりに掲載します。投稿くださった方に謝礼をお送りします。奮って応募ください。

編集後記

昨年の11月30日に監査の野田浩会員

が逝去されました。心よりお悔やみ申し上げます。監査の後任には服部庄一氏が総会で選出されました。



校友会の福島支部 QRコード